

# 未来への伝承

## ジオパークからの贈り物

### —地球が生んだ資源の活用—

平成28年、土浦市を含む6市が筑波山地域ジオパークとして日本ジオパークに認定されました。ジオパークは大地の公園ともいわれ、地形・地質のほか、歴史・文化、産業など人々の営みも学ぶことが出来ます。今後、教育や観光、保全に大いに活用できるものと期待されます。

さて、筑波山地域ジオパークのエリアは、雲母片岩や花崗岩など石材が産出される所で、雲母片岩は古墳の石棺材として使われ、千葉県北部や鬼怒川流域まで運ばれました。花崗岩は中世には五輪塔などの石造物、近現代には建造物などに使われ、広く流通していました。

一方、各地から土浦市にもたらされた石材もあります。今回はほかの地域のジオパークエリアから、原始古代にもたらされた石材について紹介します。

原始古代の人たちが身に付けていたアクセサ



▲ヒスイの大珠



▲コハクの玉、勾玉と  
メノウの勾玉



▲滑石の石製模造品

リーの材料に、ヒスイやコハクがあります。ともに産地が限定されていることから、入手が困難な貴重な品でした。

ヒスイは、新潟県の糸魚川世界ジオパークエリアが産地です。縄文時代は大珠とよばれるペンダントに加工されました。東日本を中心に全国各地で発見されており、広範囲な交易をうかがうことが出来ます。市内でも赤弥堂遺跡(下坂田)などから5点発見されています。

コハクは杉、松、檜などの樹脂が地中に埋もれて化石になったもので、軟質で軽く、色は黄色や赤褐色が多くみられます。関東近郊では銚子ジオパークの千葉県銚子市が産地です。壊れやすい材質のため発見例は少なく、市内では、玉と勾玉の2点が発見されています。また、八幡脇遺跡(おつ野)から古墳時代初めの4世紀代に、コハク製勾玉を製作した工房跡が発見されました。

県内には筑波山地域のほかに久慈山地や阿武隈山地、海岸線一帯がエリアの茨城県北ジオパークがあります。ここからはメノウや滑石産出されません。

メノウは勾玉などの材料として古くから使われた石材です。市内では武者塚古墳(上坂田)などから発見されており、権力者のアクセサリとして使われました。また、鳥山遺跡(鳥山)や八幡脇遺跡からは古墳時代の初めにメノウ製勾玉を製作した工房跡が発見されています。

滑石は軟質で加工しやすい石材です。古墳時代中頃の5世紀代、集落や水田などで祭祀行為が盛んに行われましたが、そのときに勾玉や剣、鏡などを模った滑石の道具が使われました。これらは石製模造品と呼ばれ、市内の遺跡からもたくさん発見されています。このほか、糸をつむぐ紡垂車にも滑石製品がみられます。

このように各地のジオパークから産出される鉱物資源は、原始古代からアクセサリや道具などに利用され、広範囲にもたらされました。

今回紹介した石製品は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて今月末まで展示しています。ぜひご覧ください。

☎ 上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826・7111)